

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート(令和6年度)

事業名称				実施主体			
第29回(令和6年度)みはら芸術展				みはら芸術展実行委員会			
事業目的		事業効果		活動指標	R4	R5	R6
美原区域の住民・団体の協働による事業を通じて、地域コミュニティの活性化と自主的な魅力ある地域コミュニティの形成を図る。また、住民に芸術文化に触れる機会を設け、この芸術文化活動の交流の場を通して、住民の芸術文化に対する意識の高揚を図ることで心豊かな市民生活を伸長する。		区域住民自らが企画・運営、参加することにより、住民が主体的に行う地域コミュニティの形成や、芸術文化の発展を支えるための幅広い人材育成ができる。また、文化的で豊かな市民生活を推進することができる。		①出展数	154点	175点	178点
				②来場者数	1,078人	1,218人	1,151人
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
◎	行政と区民が協働で本事業を実施することで、美原区の芸術・文化活動の発展や、区域の連帯、交流を図ることができる事業である。	◎	本実行委員会は、区内を中心に活動する芸術愛好家で構成され、イベント内容の企画、運営を行う。一方で、実施にかかる事務や調整は事務局である行政が担う。一定の役割分担をしつつも、互いの強みを生かしながら、協働して事業を実施できている。	○	公募により応募される作品は、すべて展示し、出品者は10代～90代までと幅広い年齢層の区民が当芸術展に関わっている。また、アンケート結果で人気を集めた作品を、区役所や図書館に展示することで、区民が芸術にふれる機会を増やすことができた。	○	出展者には、出品料として費用の一部を負担していただき、事業費に充当している。また、イベント期間においては、作品搬入から展示、運営、作品搬出まで、実行委員を中心としたボランティアスタッフで全てを行っている。
⑤自立発展性		総合評価					
—	本事業は、行政と区民の協働であり、区民である実行委員には、積極的な活動や取組の促進を図っている。	○	ワークショップを実施することにより、こどもの来場を促した上で開催することとなった。天候の影響や、小学校の行事と日程が重複したこともあり来場者数が微減したが、それでも多くの方が来場されており、美原区の秋の風物詩となっている。				
今後の方向性(課題、改善提案等)							
拡充 継続 見直し 廃止	美原区の秋の風物詩として今後も継続できるように、開催にかかる経費の削減や、事業効果を高める手法、取組について検討する。						